

CONDENSED INTERNATIONAL
**OPERATOR'S
MANUAL**



TAYLOR®



Chinese - Japanese - Korean - Thai

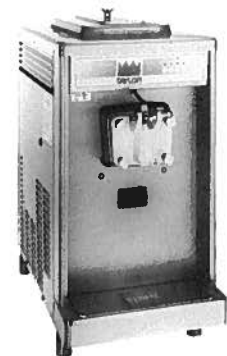
700 系列软制品冷冻机

700 シリーズソフトサーブフリーザー

700 시리즈 소프트 서브 냉동기

รุ่น 700 เครื่องทำซอฟท์เสิร์ฟ

750



751



754



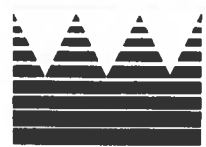
774



794



700シリーズソフトサーブフリーザー



TAYLOR®



750



751



操作説明書

754



774



794



本ページを埋めて点検・補修時の参照にご利用ください。

テイラー販売店名： _____

住所： _____

電話： _____

サービス： _____

パーツ： _____

設置日： _____

データプレートの記録：

モデル番号： _____

シリアル番号： _____

電気仕様： 電圧 _____ サイクル _____

位相 _____

最大フューズサイズ： _____ アンペア

最小ワイヤ電流容量： _____ アンペア

パーツ番号： _____

目次

第1章	設置のために	1
	水源への接続（水冷ユニットのみ）	1
	空冷ユニット	1
	電気系統の接続	1
第2章	安全について	2
第3章	操作手順	3
	組立	3
	消毒	6
	プライミング	7
	後始末	8
	冷凍シリンダーからの食品材料流し出し	8
	すすぎ	8
	クリーニング	8
	分解	9
	ブラシクリーニング	9

注意：研究調査に基づいての継続的な改善が行われることにより、本説明書の内容も予告なしに変更されることがあります。

水源への接続

(水冷ユニットのみ)

冷水の供給は手動式開閉バルブによって適量に行われる必要があります。ベースパンの後部下側に3/8インチ(0.95cm) I.P.S.(シングルヘッドユニット用)水源接続が2個、または1/2インチ(1.27cm) I.P.S.(ダブルヘッドユニット用)水源接続が2個それぞれ入水用と排水用としてあり接続を容易にしています。本機には1/2インチ(1.27cm)内径の水管を接続する必要があります。(地域規定の認可があれば柔軟性のある水管が推奨されます。)その地域の水質条件によっては自動給水バルブに異物質が詰まることなどがないようにフィルター機器を設置することがお勧めされます。シングルヘッド、ダブルヘッドのいずれにも入水(in)、排水(out)の両接続が1個ずつのみあります。手動式開閉バルブは排水(out)管側に取付けることは絶対に行わないでください!給排水の流れは常に次の順序で行われるようにしてください。最初に自動給水バルブを通り、二番目にコンデンサーを通り、三番目に排水管継手を通して液だめ流し口まで。

空冷ユニット

空冷ユニットにはフリーザーの全ての面に最低6インチ(15.2cm)の空間をとり、コンデンサー部に十分な空気が流れるようにすることが必要です。これが十分に行われていない場合、フリーザーの冷却能力を低下させ、更にはコンプレッサーに重大な損傷を招く恐れもあります。

電気系統の接続

各フリーザーにはそれぞれのデータ表示ラベルに基づく電源供給を一つずつ必要とします。フューズ、回路電流容量、電気仕様などについてはフリーザーのデータ表示ラベルを確認してください。また電源の正しい接続については接続箱の中にある配線図を参照してください。

本装置は National Electrical Code (NEC)(米国電気規定)の NFPA 70 に基づく設置用となっています。この規定の目的は電気の使用によって発生する危険から人身および財産を突用において保護しようとするものです。この規定には安全のために必要とされる基準についても記載されます。これに従うと共に適切な保守を行うことにより設置に伴う危険を本質的に回避することができます!

警告: 本装置は正しくアースを取付ける必要があります! これを怠ると感電して人身に重大な損傷を招く恐れがあります!

回転棒の回転方向はいずれのモデルのフリーザーについても冷凍シリンダーをのぞき込んだ時に時計方向でなくてはなりません。

注意: 以下の手順については熟練したサービス技術員が行ってください。

三相ユニットの回転を補正するにはメインターミナルブロックにある入力電源線の2本のいずれかのみを交換してください。

単相ユニットの回転を補正するには回転棒のモーター内にあるリード線を変えてください。(モーター上に印刷された図に従ってください。)

電気系統の接続は、モデル750では上部左側のパネルの下側、またモデル751、754、774、794ではサービスパネルの裏側に配置されたメインコントロールボックス内にあるターミナルブロックに直接行ってください。

第2章

安全について

操作者がフリーザーやそのパーツなどと接触する際の安全性は、私共のテイラー社における関心事であります。お客様とサービス技術員との双方を守るために、テイラー社は設計や製造時より安全性を取込む努力を惜しまず最大限に続けてきています。その一例としては操作者に対する安全のための心掛けをより詳細に示す警告ラベルをフリーザーに貼り付けることなどを行っています。

重要 - 以下に示す安全のための心掛けに従わない場合、人身に重大な損傷を招く恐れがあります。またこれらの警告に従わないと機器や構成部品にも損傷を招く恐れがあります。部品に損傷が起こると、パーツの交換や修理サービスのための費用発生のもととなります。

安全な操作のために：

この操作説明書を読まずに本フリーザーの運用を行わないでください。本書の指示に従った運用を行わないと装置が損傷したり、フリーザーの稼働効率を下げたり、また健康を害したり、人身に損傷を及ぼしたりするなどの恐れがあります。

アースを正しく接続しないうちに本フリーザーの運用を行わないでください。この指示に従わないと感電死の恐れがあります。

主電源を切らないまま本フリーザーの補修を行わないでください。この指示に従わないと感電死の恐れがあります。各種サービスについては最寄りのテイラー正規販売店にお問合わせください。

本フリーザーのデータ表示ラベル指定されるものより大きなフューズを用いて本フリーザーの運用を行わないでください。この指示に従わないと感電死や機器に損傷を起こす恐れがあります。電気技師にお問合わせください。

本機の操作に慣れない者に操作させることは行わないでください。この指示に従わないと可動パーツの危険性により手や指など身体に重大な傷害を招く恐れがあります。

全てのサービスパネルやアクセスドアがネジでしっかり固定されないまま本フリーザーの運用を行わないでください。この指示に従わないと可動パーツの危険性により身体に重大な傷害を招く恐れがあります。

空気取入口や排出口をふさぐようなことは行わないでください。

カウンターモデル：両脇および背面に最低6インチ（15.2 cm）、または底部には最低4-1/4インチ（10.8 cm）の空間が必要です。

コンソールモデル：両脇および背面に最低6インチ（15.2 cm）、または底部には最低7-1/2インチ（19.1 cm）の空間が必要です。

この指示に従わないとフリーザーの稼働効率の低下や機器に損傷を招く恐れがあります。

ドア噴出口には物や指などを突き込むことは行わないでください。この指示に従わないと食品材料の衛生を害したり、可動パーツの危険性により身体に傷害を招く恐れがあります。

全ての制御スイッチを「OFF」にしないうちはドア、回転棒、かき刃、回転シャフトの取外しを行わないでください。この指示に従わないと可動パーツの危険性により身体に重大な傷害を招く恐れがあります。

回転棒組立部を取外す時は細心の注意をお払いください。かき刃は鋭く尖っていますのでけがなどの原因となる恐れがあります。

騒音レベル：大気中に発する騒音量は本機の表面部より1.0 mかつ床上1.6mの位置にて計測時に78デシベル(A)以下です。



組立

制御スイッチが「OFF」になっていることをご確認ください。



手順1

回転シャフトを取付けます。回転棒の回転シャフトのベアリングと接触する溝およびシャフトの部分に潤滑油を塗ります。封印材の内側に潤滑油をさらに1/4インチ(0.6cm)滴たし、後部シェルベアリングに合わさる封印材内面の滑らかな部分に潤滑油を延ばします。

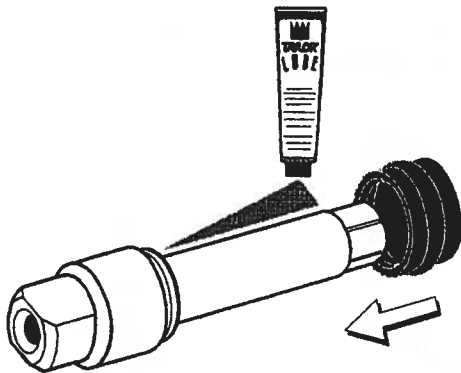


図1

回転シャフトを冷凍シリンダーの中に挿入します。六角の先端を回転継手の中にしっかりとこみ合わせます。

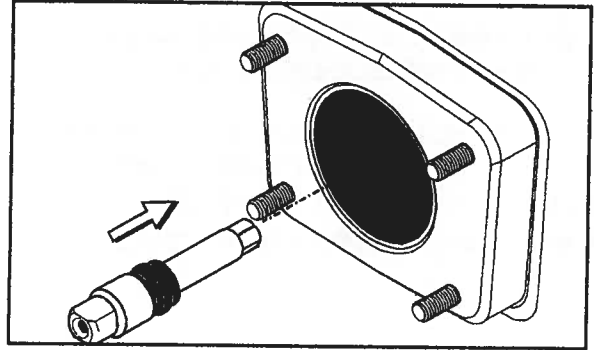


図2

手順2

回転棒とかき刃を組立てます。

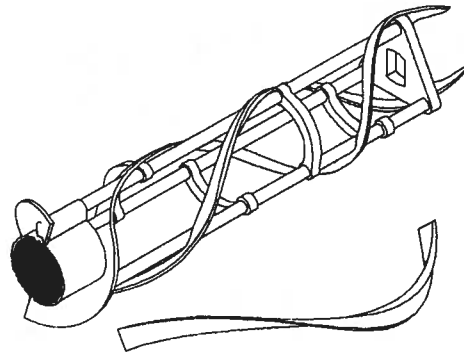


図3

回転棒をしっかり持ちながら回転棒を冷凍シリンダーの中へ1/3ほど滑り込ませます。冷凍シリンダー内をのぞいて回転棒後部にある穴と回転シャフトの先端部分とを合わせます。

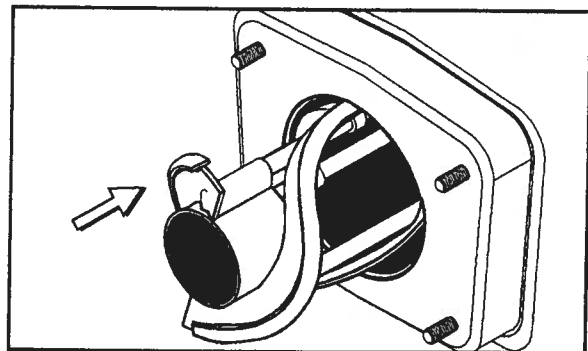


図4

回転棒の残りの部分を冷凍シリンダーの中へ滑り込ませ、回転シャフトの先端にかぶせます。

手順 3.

フリーザードアを組立てます。大きなサイズのゴムガスケットをフリーザードアの裏側にある溝に入れます。

バッフルロッドの上をベアリングハブまで白いプラスチックの前部ベアリングを滑らせ、そのベアリングのフランジ付けた先端がフリーザードアに乗るようにさせます。ガスケットまたは前部ベアリングには潤滑油を付けしないでください。

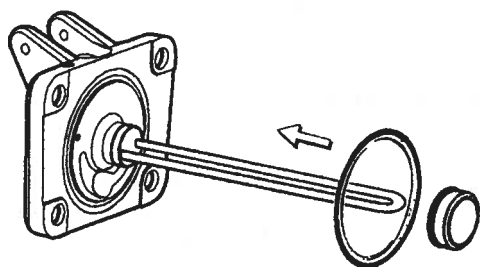


図 5

リングをプライムプラグの溝に滑り込ませます。テ일러ーループ (Taylor Lube) をリングおよびシャフトに均等に塗ります。

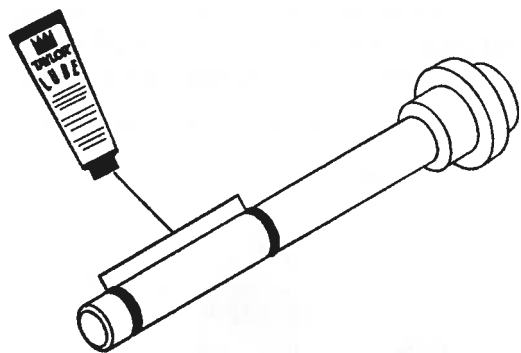


図 6

フリーザードアの上部にある穴にプライムプラグを挿入します。

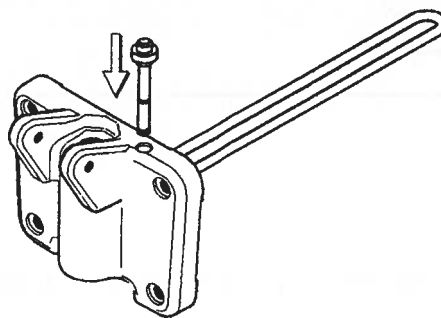


図 7

手順 4

フリーザードアを取付けます。回転棒の開口にバッフルロッドを挿入し、冷凍シリンダーにぴったりとドアを据え置きます。手動ネジを取付けます。

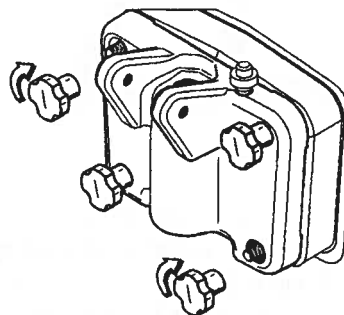


図 8

手順 5

ドローバルブを取付けます。ドローバルブの溝に2つのリングを滑り込ませ、潤滑油を塗ります。

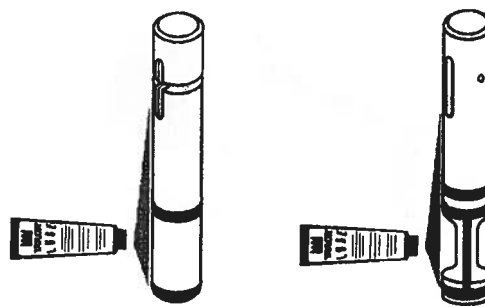


図 9

フリーザードア噴出口の内側に潤滑油を塗ります。

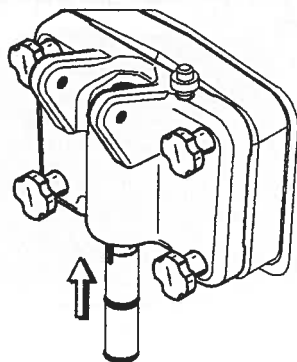


図10

手順7

ドア噴出口の先にデザインキャップを取付けます。

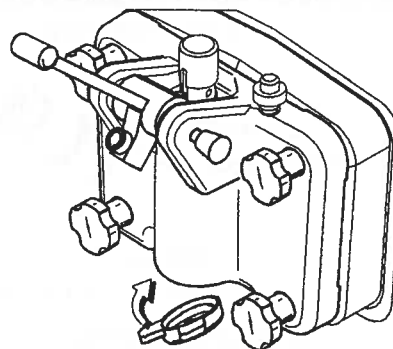


図13

手順6

調節自在ドロートラベルを取付けます。ピボットピンの溝に
Oリングを滑り込ませ、潤滑油を塗ります。

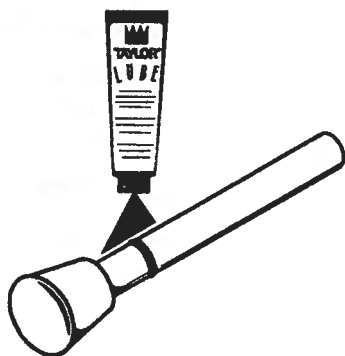


図11

手順8

ドア噴出口の下に前部しずく受け皿およびはねよけを取付け
ます。

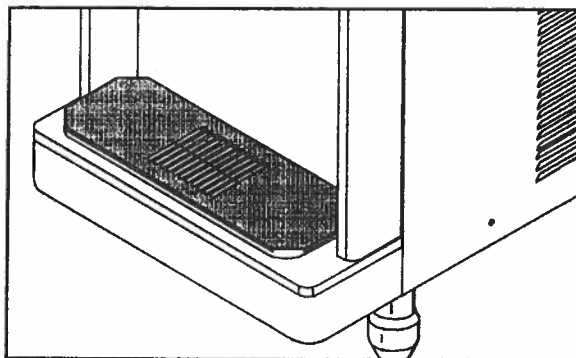


図14

ドロートラベルのスロットのパーの上にフォークを滑り込ませ
ます。ピボットピンでハンドルを固定します。

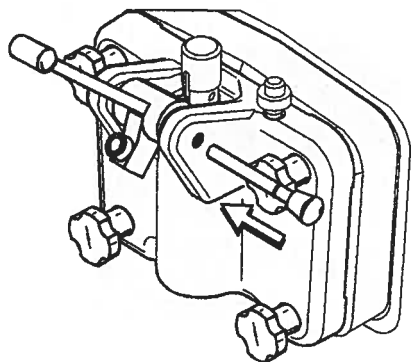


図12

手順9

後部しずく受けを滑り込ませ、サイドパネルの穴に入れます。

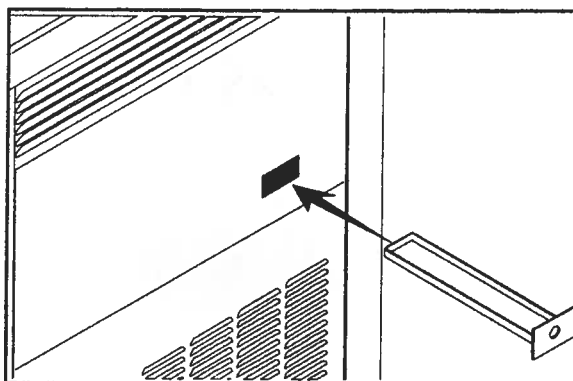


図15

手順 10

空気管の一方の先端に2つのOリングを滑り込ませます。また空気管の反対側の先端にも2つのOリングを滑り込ませます。

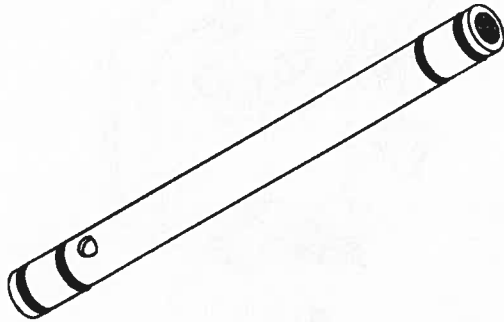


図 16

エア-オリフィスの溝に小さいサイズのOリングを滑り込ませます。

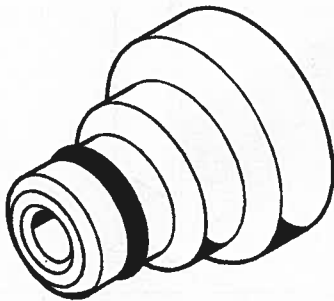


図 17

空気管の先端にある穴の中にエア-オリフィスを取付けます。

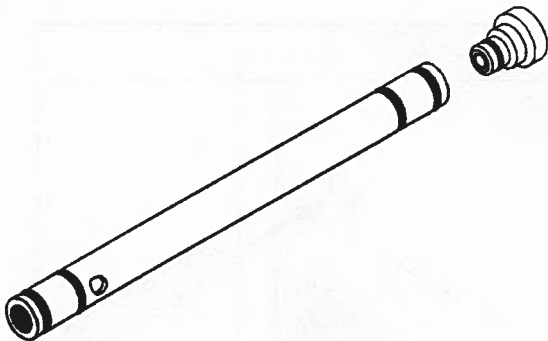


図 18

手順 11

消毒のためにミックスホッパーの底に空気管およびホッパーガスケットを置きます。

消毒

手順 1

100PPMの指定の消毒溶液を2ガロン(7.6リットル)用意します。

手順 2

この2ガロン(7.6リットル)の消毒溶液をホッパー内に流し込みます。

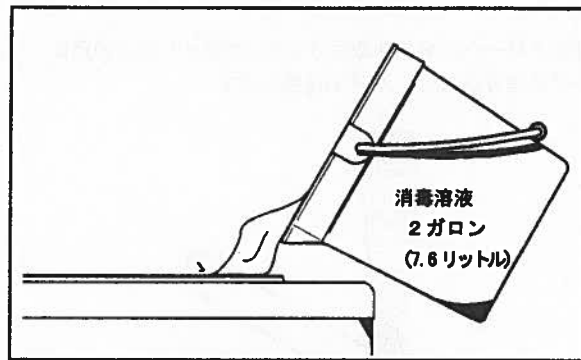


図 19

手順 3

冷凍シリンダー内にこの消毒溶液が流れている間、ミックスホッパーをブラシできれいにします。

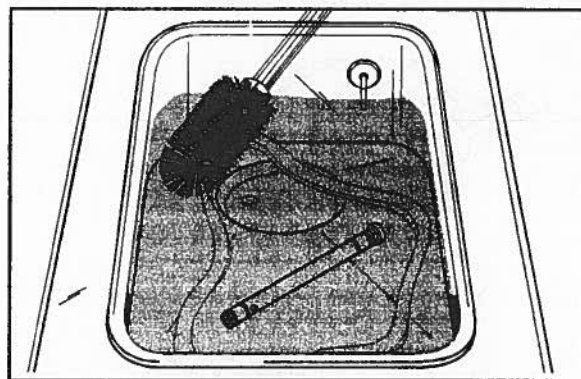


図 20

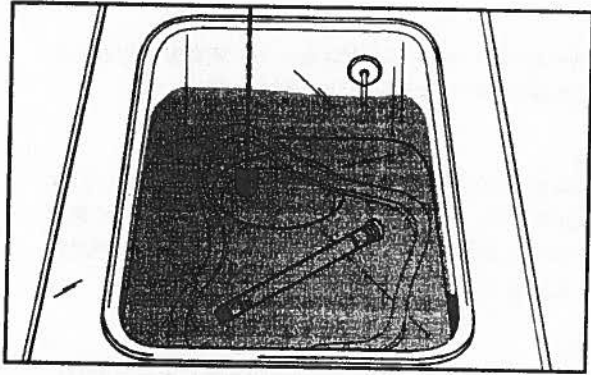


図 2 1

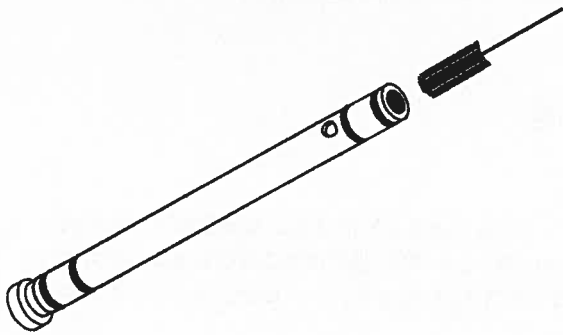


図 2 2

手順 4

電源スイッチを「ON」にします。

手順 5

「WASH」(洗浄)の表示を押します。消毒溶液を5分間攪拌させます。

手順 6

空のバケツをドア噴出口の下に置き、プライムプラグを持ち上げます。

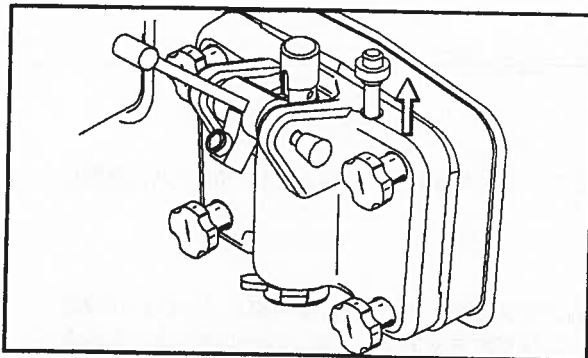


図 2 3

手順 7

フリーザードアの底にあるプライムプラグの開口より一定の流れで消毒溶液が流れ出したら、ドローハンドルを下げ降ろします。消毒溶液を全て抜き出してください。

手順 8

ドア噴出口からの消毒溶液の流れが止まったら、ドローハンドルを持ち上げ、「WASH」(洗浄)の表示を押します。

手順 9

ミックスホッパーの上端部周囲にホッパーガasketを取付けます。空気をホッパーの角に立てかけます。

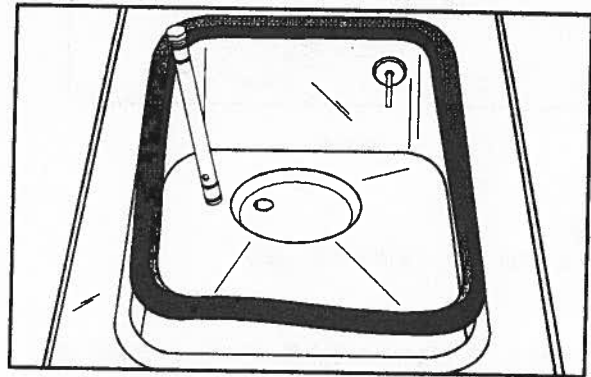


図 2 4

プライミング (充填)

手順 1

ドア噴出口の下にバケツを置き、ドローハンドルを下げ降ろします。プライムプラグが「UP」(上)の位置にあることを確かめてください。2ガロン(7.6リットル)の新しいミックスをミックスホッパーの中へ注ぎ、冷凍シリンダーの中に流し込みます。ドア噴出口からの流れが完全にミックスだけになったら、ドローハンドルを持ち上げます。

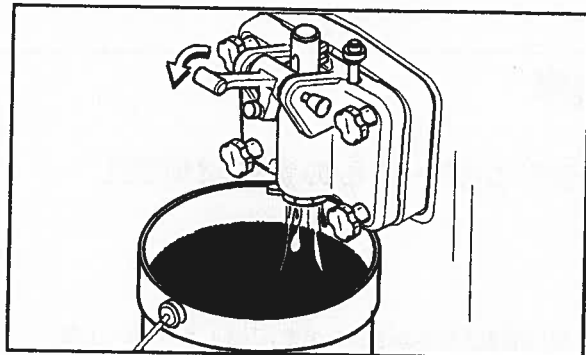


図 2 5

手順2

フリーザードアの底にあるプライムプラグの開口より一定の流れでミックスが流れ出したら、プライムプラグを押し下げます。

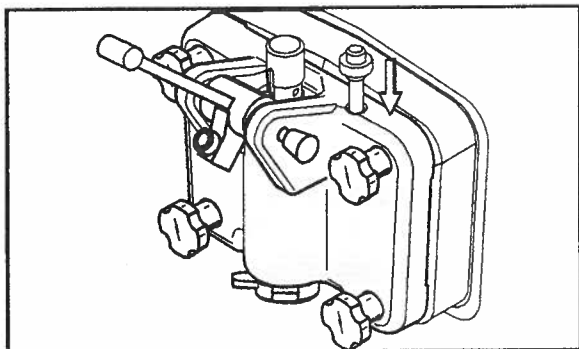


図26

手順3

空気管上のOリングに潤滑油を塗ります。

手順4

エアオリフィスを取付けた空気管（穴のある先端部）をミックス入口の中に取り付けます。

手順5

「AUTO」（自動）の表示を押します。ユニットが動作を完了すると食品材料は盛付けに適した粘度となります。

手順6

ホッパーをミックスで満たします。

手順7

ミックスホッパーカバーをミックスホッパーの所定の位置に置きます。

後始末

冷凍シリンダーからの食品材料流し出し

手順1

「AUTO」（自動）の表示を押します。「MIX REF」の表示を押します。

手順2

ホッパーカバー、ホッパーガスケット、空気管を取外します。これらのパーツは流して洗います。

手順3

消毒済みのバケツをドア噴出口の下に置き、「WASH」（洗浄）の表示を押します。ドローハンドルを下げ降ろして冷凍シリンダーおよびミックスホッパーから残っている食品材料を流し出します。

手順4

食品材料を流し終えたら「WASH」（洗浄）の表示を押してからドローハンドルを持ち上げます。

すすぎ

手順1

2ガロン（7.6リットル）のきれいな冷水をミックスホッパーの中に流し込みます。備え付けのブラシでミックスホッパー、ミックス入口、ミックスレベルセンサーをこすり洗います。

手順2

バケツをドア噴出口の下に置き、プライムプラグを持ち上げ「WASH」（洗浄）の表示を押します。

手順3

フリーザードアの底にあるプライムプラグの開口より一定の流れですすぎの水が流れ出したら、ドローハンドルを下げ降ろします。冷凍シリンダーよりすすぎの水を全て流し出し、ドローハンドルを持ち上げ「WASH」（洗浄）の表示を押します。

クリーニング

手順1

指定のクリーニング溶液を2ガロン（7.6リットル）用意します。

手順2

プライムプラグを押し下げます。2ガロン（7.6リットル）のクリーニング溶液をミックスホッパーの中へ流し込みます。

手順3

溶液が冷凍シリンダーの中まで流れている間、ミックスホッパー、ミックスレベルセンサー、ミックス入口をブラシ洗います。

手順4

「WASH」(洗浄)の表示を押します。

手順5

空のバケツをドア噴出口の下に置きプライムプラグを持ち上げます。

手順6

フリーザードアの底にあるプライムプラグの開口より一定の流れでクリーニング溶液が流れ出したら、ドローハンドルを下げ降ろします。溶液を全て抜き出してください。

手順7

ドア噴出口からのクリーニング溶液の流れが止まったら、ドローハンドルを持ち上げ、「WASH」(洗浄)の表示を押します。

分解



手順1

電源スイッチがOFF状態にあることを確認してください。コントロールパネルのランプがいずれも消えていることを確認してください。

手順2

手動ネジ、フリーザードア、回転棒、かき刃、回転シャフトを冷凍シリンダーから取外します。これらのパーツは流して洗います。

手順3

前部しずく受け皿およびはねよけを取外します。

ブラシクリーニング

手順1

指定のクリーニング溶液を流しに用意します。

手順2

回転シャフトから封印材を取外します。

手順3

フリーザードアから以下を取外します。

- ・ガスケット
 - ・前部ベアリング
 - ・ピボットピン
 - ・調節自在ドローハンドル
 - ・デザインキャップ
 - ・ドローバルブ
 - ・プライムプラグ
- Oリングを全て外します。

手順4

空気管およびエアオリフィスからOリングを外します。

手順5

クリーニング溶液を少量とりフリーザーのクリーニングに戻ります。黒剛毛ブラシを用いて冷凍シリンダーの後ろにある後部シェルベアリングをブラシみがきします。

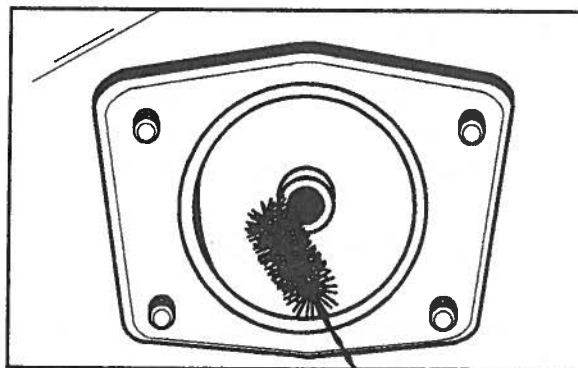


図27

手順6

後部しずく受けを取外し、流して洗います。

手順7

クリーニング溶液の中で分解したパーツを全てブラシで十分によくきれいにします。きれいにしたパーツは全て、清潔で乾いた場所に置いて一晚空気を乾燥させます。

手順8

フリーザーの全体の外側表面をきれいに拭き取りします。

ポンプ操作手順

ご使用のフリーザーのミックスホッパーにエアー／ミックスポンプが備え付けられている場合、回転棒組立部の取り付けには以下にある専用の説明に従って行なってください。

回転棒組立部を取り外す際は細心の注意を払ってください。かき刃は鋭く尖っており、けがをする恐れがあります。

手順 1

かき刃クリップをかき刃に取り付けます。後部かき刃を回転棒の後部支持ピンに取り付けます。

手順 2

回転棒の後部かき刃を押さえながら、冷凍シリンダーの中まで入れます。前部かき刃を前部支持ピンに取り付けます。回転棒組立部の残りの部分を冷凍シリンダーの中に入れません。

手順 3

モデル 8754 の場合、フリーザーの反対側についてもこの手順を繰返し行ってください。

本説明書に概説する手順の残りの部分に従いながらフリーザーの組立てを終えた後は、エアー／ミックスポンプの組立て、消毒、フリーザーのプライミングへと進んでください。

エアー／ミックスポンプの組立て

エアー／ミックスポンプの使用目的は、空気とミックスとを指定量に計量し、この一定割合において冷凍シリンダーへ送り込むことにあります。

手順 1

ピストンを組立てます。Oリングをピストンの溝に滑り込ませて入れます。

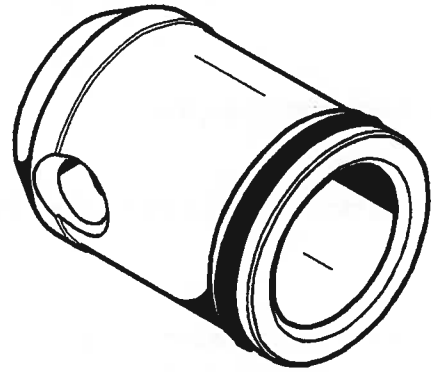


図 28

手順 2

液体バルブ本体を組立てます。チェックバンド3本とOリング3本とを液体バルブ本体の溝に滑り込ませて入れます。

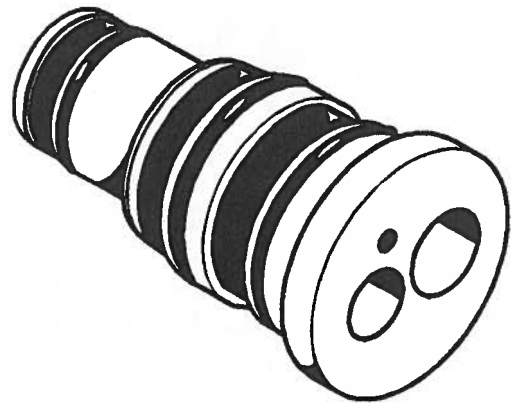


図 29

手順 3

少量の潤滑油をピストンの内径に塗ります。液体バルブ本体の細い方をピストンの開口部へ挿入します。

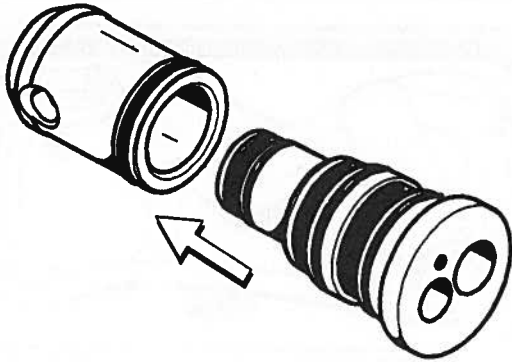


図 30

手順 4

少量の潤滑油をポンプシリンダー下側の内径に塗ります。

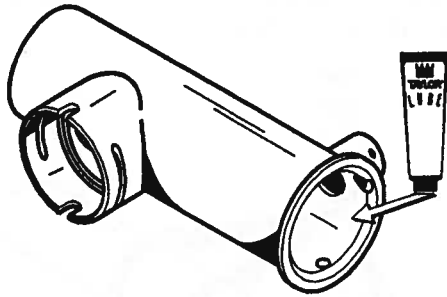


図 31

組立てたピストンと液体バルブ本体をポンプシリンダーへ挿入し、上方へ押し込みます。

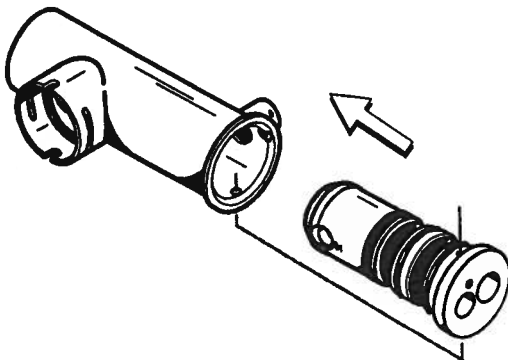


図 32

注意：ピストンの穴はポンプシリンダーの穴を通して見えるように合わせてください。

手順 5

ミックス入口管組立部を組立てます。Oリングと封印材2個を管継手の溝に滑り込ませ、それらの部分に潤滑油を十分に塗ります。

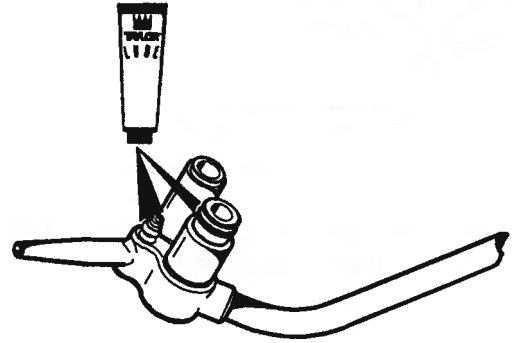


図 33

手順 6

ゴムボペットをバネの細い方に付けます。バネとボペットを圧抜管継手の先端部に取り付けます。

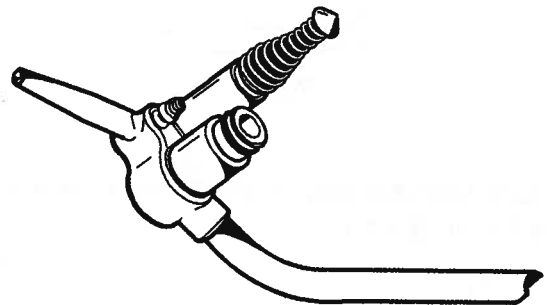


図 34

組立てたミックス入口管を液体バルブ本体基部の穴に挿入します。

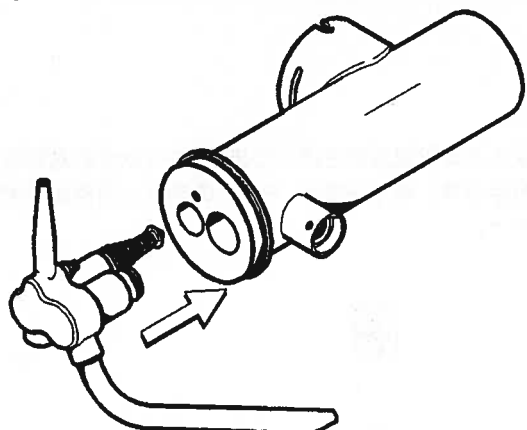


図 35

ポンプシリンダー底部にある交差穴に留めピンを差し込み、ポンプのパーツを適所に固定します。

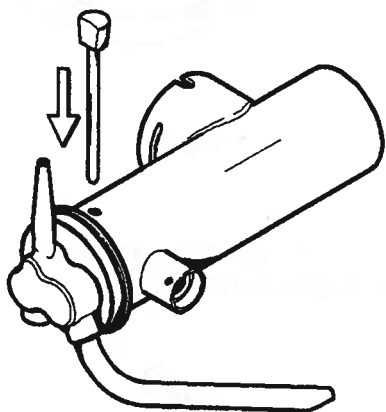


図 36

手順 7
ミックス注入管の各先端部にOリングを1本ずつ取り付け、潤滑油を十分に塗ります。

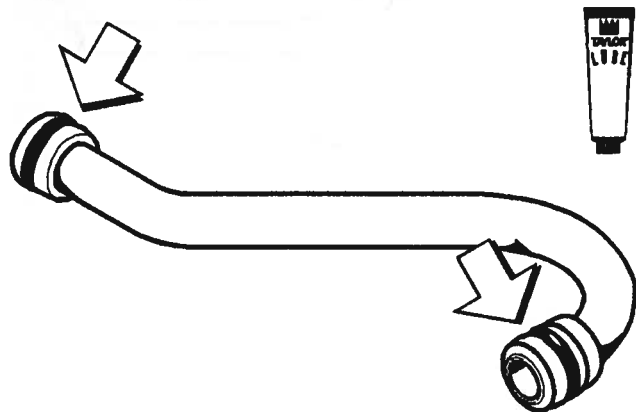


図 37

手順 8

ポンプ組立部、ポンプクリップ、ミックス注入管、ロックリップ、ガスケットをミックスホッパーの底に置き、消毒します。

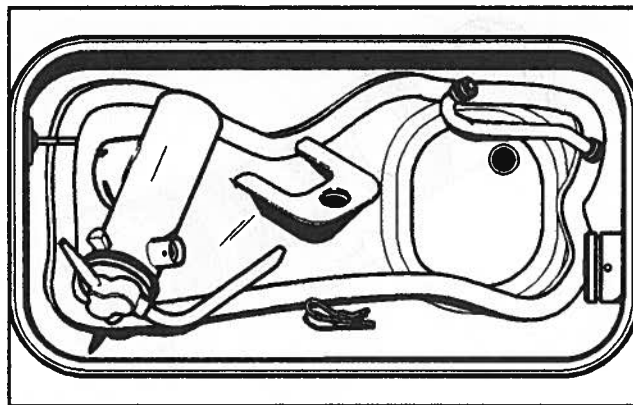


図 38

手順 9

大サイズのOリング1本および小サイズのOリング2本を回転シャフトの溝に滑り込ませて入れます。Oリングとシャフトに潤滑油を十分に塗ります。シャフトの六角の先端部には潤滑油を付けないでください。

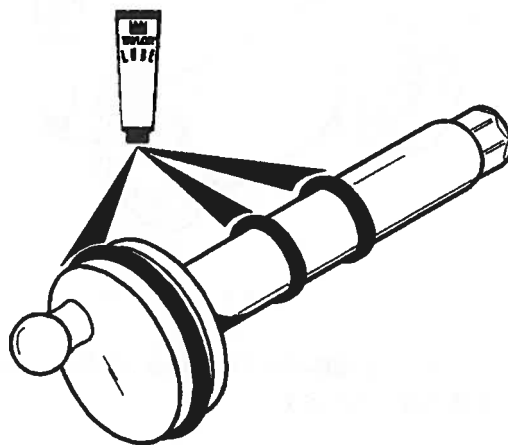


図 39

ミックスホッパーの後部壁にある回転ハブに、回転シャフトの六角の先端部を挿入します。

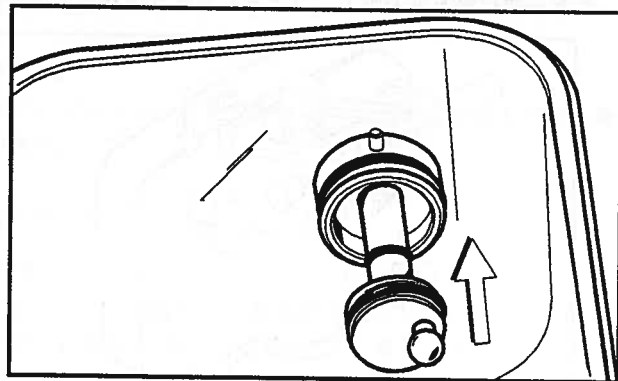


図 4 0

モデル 8754 の場合、フリーザーの反対側についても手順 1 から手順 9 までを繰返し行なってください。

エアー／ミックスポンプの消毒

手順 1

7.6 リットルの指定の消毒溶液を用意します。温水を用い、製造メーカーの指定に従ってください。

手順 2

消毒溶液をホッパーに流し込みます。

手順 3

消毒溶液を冷凍シリンダーに流し込ませます。消毒溶液が冷凍シリンダー内に流れ込んでいく間、ミックスレベルセンサー、ミックスホッパー、ミックスホッパーガasket、ミックス入口部、エアー／ミックスポンプ、ポンプクリップ、ミックス注入管、ロッククリップをブラシでみがいてきれいにします。

手順 4

ポンプ組立部を取り付けます。ポンプの継輪にポンプクリップをはめ込み、ポンプを適所に固定させます。継輪の溝にクリップがしっかりと収まっていることを確認してください。

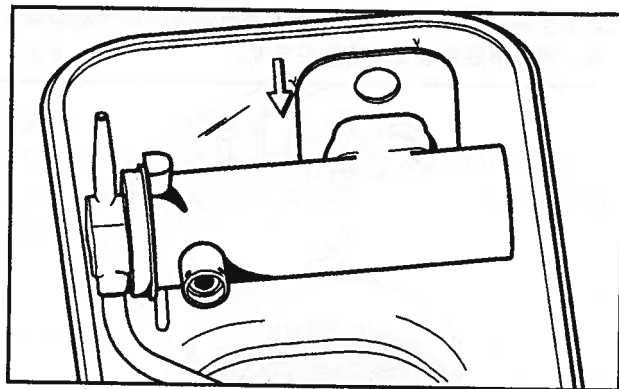


図 4 1

モデル 8754 の場合、フリーザーの反対側についても手順 1 から手順 4 までを繰返し行なってください。

手順 5

電源スイッチをONにします。

手順 6

「WASH」(洗浄) ボタンを押します。消毒溶液を5分間攪拌させます。

手順 7

5分後、空の容器をドア噴出口の下に置き、プライムプラグを持ち上げ、「PUMP」(吸水) ボタンを押します。

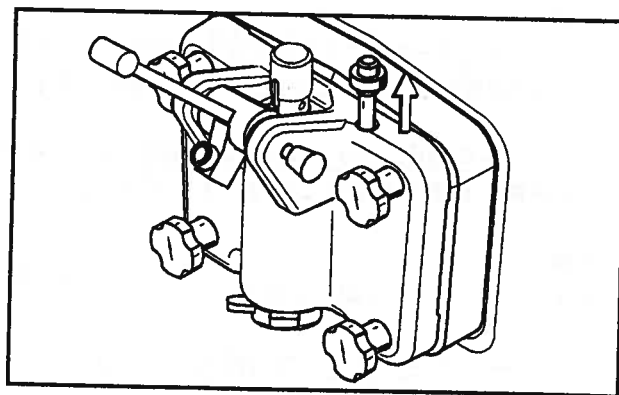


図 4 2

手順 8

プライムプラグ開口からの消毒溶液の流れが一定になったら、消毒溶液を全て抜き取ります。

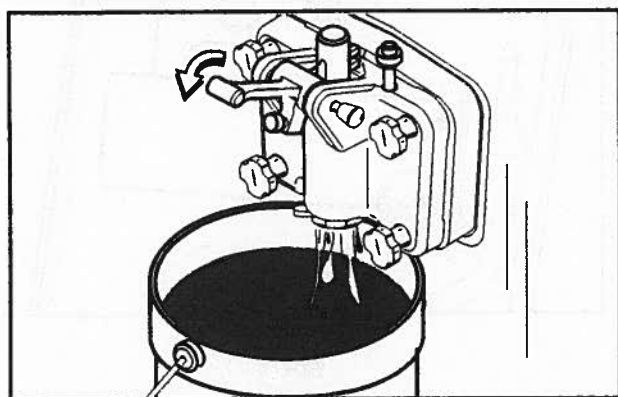


図 4 3

注意：モデル 8754 の場合は、少しの間、中央のドローハンドルを引き降し、中央のドア噴出口の消毒を行なってください。

手順 9

ドア噴出口からの消毒剤の流れが止まったら、ドローハンドルを持ち上げ、「WASH」（洗浄）と「PUMP」（吸水）のボタンを押します。

注意：これらの説明に従って作業を進める前に、手がきれいで消毒済みであることを確認してください。

手順 10

ミックスホッパーの隅にミックス注入管を立てかけます。ポンプ出口の管継手の適所にロッククリップを付けます。

モデル 8754 の場合、フリーザーの反対側についても手順 6 から手順 10 までを繰返し行なってください。

手順 11

ホッパーガasketを組立てます。

エアー／ミックスポンプの プライミング（充填）

手順 1

空の容器をドア噴出口の下に置き、ドローハンドルを降します。プライムプラグがまだ上向きのものであることを確認してください。7.6リットルの真新しいミックスをホッパーに注ぎ、冷凍シリンダー内に流し込みます。ドア噴出口からの流れが完全にミックスだけになったら、ドローハンドルを持ち上げます。

手順 2

フリーザードア底部にあるプライムプラグ開口から、ミックスが一定に流れ始めたら、プライムプラグを押し下げます。

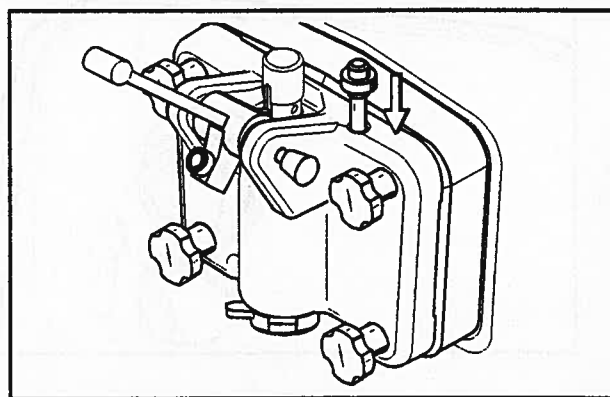


図 4 4

手順 3

ミックスがぶくぶくさせながら冷凍シリンダーへ流れ込んでいくのが止まったら、ミックス注入管を挿入します。ミックスポンプ出口の管継手からロッククリップを取り外します。ミックス注入管の入口先端部をミックスホッパーのミックス入口部に挿入します。ミックス注入管の入口先端部をミックスポンプ出口の管継手に挿入します。ロッククリップで固定します。

手順 4

「AUTO」（自動）ボタンを押します。ユニットサイクルが終了すると、食品材料は販売に適した粘度となります。

手順 5

ホッパーを真新しいミックスで満たします。

手順 6

ミックスホッパーのカバーを所定の位置に置きます。

モデル 8754 の場合、フリーザーの反対側についても手順 1 から手順 6 までを繰返し行なってください。

冷凍シリンダーからの食品材料流し出し

手順 1

「AUTO」（自動）ボタンを押します。

「MIX REF」（ミックス冷蔵）ボタンを押します。

手順 2

ホッパーのカバーとガasketを取り外します。これらのパーツは流しで洗います。

手順 3

消毒済みの容器をドア噴出口の下に置き、「WASH」（洗浄）と「PUMP」（吸水）のボタンを押します。冷凍シリンダーとミックスホッパーから残っている食品材料を流し取ります。

手順 4

食品材料の流れが止まったら、「WASH」(洗浄)と「PUMP」(吸水)のボタンを押し、ドローバルブを閉じます。

手順 5

エア-ミックスポンプを取り外し、流しで分解してから洗います。

すすぎ

手順 1

7.6リットルのきれいな常温の水をミックスホッパーの中に流し込みます。ミックスホッパー、ミックス入口部、ミックスレベルセンサーをみがき洗います。

手順 2

容器をドア噴出口の下に置き、プライムプラグを持ち上げ、「WASH」(洗浄)ボタンを押します。

手順 3

フリーザードア底部にあるプライムプラグ開口からのすすぎ水の流れが一定になったら、冷凍シリンダーからその水を全て流し出します。ドア噴出口からの水の流れが止まったら、ドローハンドルを持ち上げ、「WASH」(洗浄)ボタンを押します。

この手順を冷凍シリンダーから流れ出るすすぎ水がきれいになるまで繰り返します。

モデル8754の場合、フリーザードアの反対側についても手順1から手順3までを繰り返して行ってください。

クリーニング

手順 1

7.6リットルの指定のクリーニング溶液を用意します。温水を用い、製造メーカーの指定に従ってください。

手順 2

プライムプラグを押し下げます。7.6リットルのクリーニング溶液をミックスホッパーの中に流し込みます。

手順 3

クリーニング溶液が冷凍シリンダー内に流れ込んでいく間、ミックスホッパー、ミックスレベルセンサー、ミックス入口部をブラシでみがいてきれいにします。

手順 4

「WASH」(洗浄)ボタンを押します。

手順 5

空の容器をドア噴出口の下に置き、プライムプラグを持ち上げます。

手順 6

フリーザードア底部にあるプライムプラグ開口からのクリーニング溶液の流れが一定になったら、クリーニング溶液を全て流し出します。

手順 7

ドア噴出口からのクリーニング溶液の流れが止まったら、ドローハンドルを持ち上げ、「WASH」(洗浄)ボタンを押します。

モデル8754の場合、フリーザーの反対側についても手順1から手順7までを繰り返して行ってください。

分解

手順 1

電源スイッチが「OFF」になっていることを確認してください。

手順 2

冷凍シリンダーから手動ネジ、フリーザードア、回転棒、かき刃、回転シャフトを取り外します。これらのパーツを流しで洗います。

手順 3

回転シャフト取外し用具を用いて、ミックスホッパーの後部壁にある回転ハブから回転シャフトを取り外します。

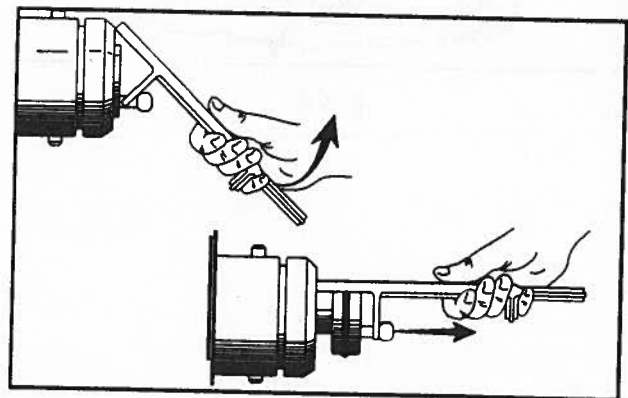


図 4 5

手順 4

前部しずく受けとはねよけを取り外します。

ブラシクリーニング

手順 1

流しに指定のクリーニング溶液を用意します。温水を用い、製造メーカーの指定に従ってください。

手順 2

封印材を回転シャフトから取り外します。

手順 3

ガスケット、前部ベアリング、ピボットピン、調節用ドロウハンドル、ドロウバルブ、プライムプラグ、デザインキャップを取り外します。Oリングを全て取り外します。

手順 4

留めピン、液体バルブ本体、ピストン、ミックス入口管、パネ、ボベットを取り外します。全てのOリング、封印材、チェックバンドを取り外します。

手順 5

黒い剛毛ブラシとクリーニング溶液を用いて、冷凍シリンダーの後ろにある後部シェルベアリングをブラシみがきします。ミックスホッパーの後部壁にある回転ハブ開口部をブラシできれいにします。

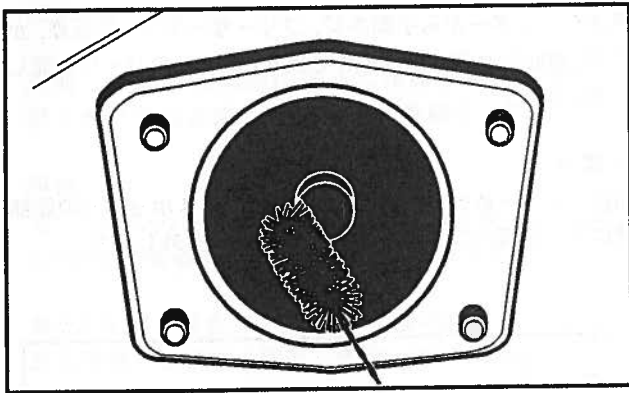


図 4 6

手順 6

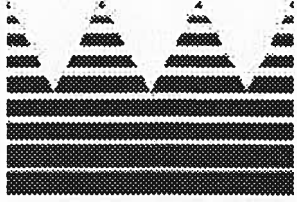
後部しずく受けを側面パネルから取り外し、流しで洗います。

手順 7

分解したパーツは全て、ブラシを用いてクリーニング溶液で十分にきれいにします。きれいにしたパーツは全て、清潔で乾燥した所に置き、一晩空気乾燥させます。

手順 8

フリーザーの外面全体をきれいに拭き取ります。



簡易ポンプ使用説明書

ご使用のユニットには簡易エアー/ミックスポンプが搭載されています。エアー/ミックスポンプの組立て、クリーニング、消毒を行う際は、装置説明書の内容に代えて、本書に記載される説明にしたがってください。

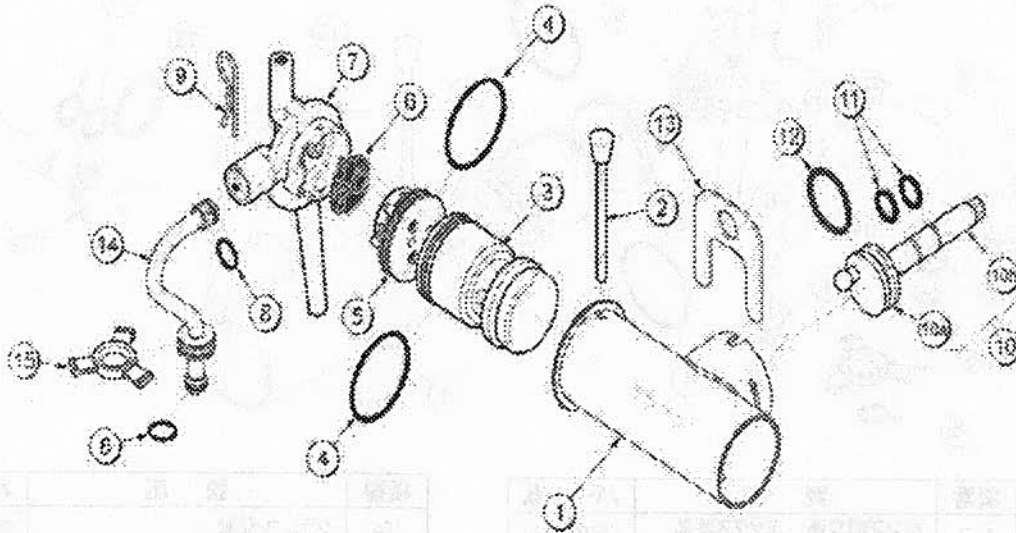
057033JINS



TAYLOR®

Rev. 5 4/30/03

X57028-XX ポンプ A. - ミックス簡易(シェイク)

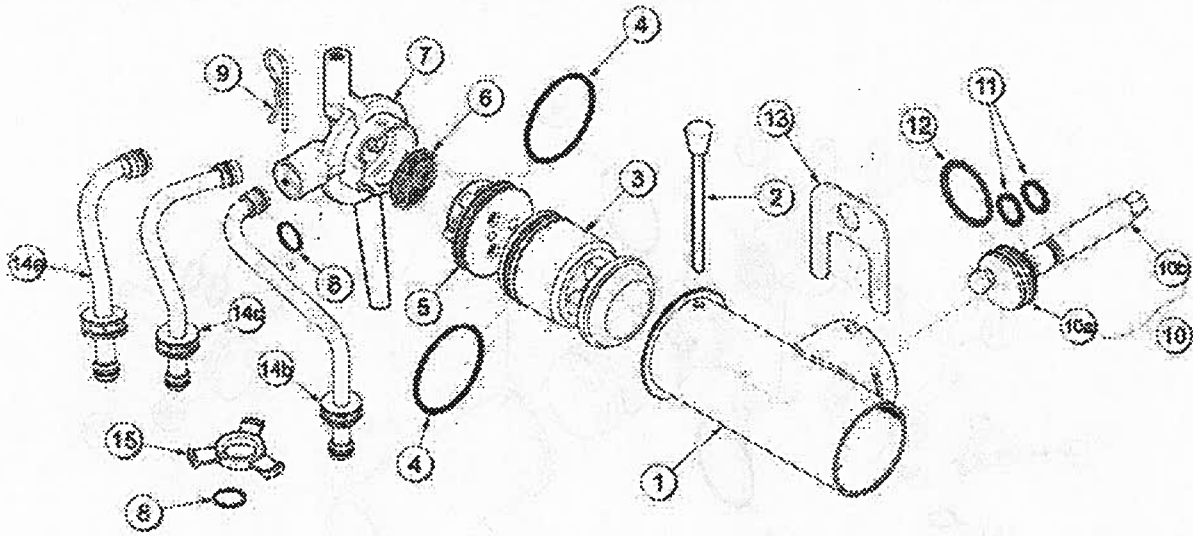


項番	説明	パーツNo.
1-7	ポンプ組立部 - ミックス簡易シェイク	X57028-XX
1	シリンダー A.-ポンプ-ホッパー-シェイク	X57024
2	ピン A.-COAX ポンプ	X55450
3	ピストン	053526
4	Oリング 2-1/8" (5.4 cm) OD - 赤	020051
5	バルブ-キャップ	056873-XX
6	ガスケット - 簡易ポンプバルブ	053527
7	アダプター-ミックス入口シェイク - 青	054944
8	Oリング - 11/16 (1.7 cm) OD - 赤	016132

項番	説明	パーツNo.
9	ピン - コッター	044731
10	シャフト A.-回転-ミックスポンプ-ホッパー	X41947
10a	クランク-駆動	039235
10b	シャフト-駆動	041948
11	Oリング - 駆動シャフト	048632
12	Oリング 1-3/4" (4.4 cm)	008904
13	クリップ-ミックスポンプ留め	044641
14	配管 A.-注入-ホッパーシェイク	X56522
15	リング-チェック .120 OD	056524



X57028-XX ポンプ A. - ミックス簡易(ソフトサーブ)



項番	説明	パーツNo.
1-7	ポンプ組立部 - ミックス簡易ソフトサーブ	X57029-XX
1	シリンダー A.-ポンプ-ホッパーソフトサーブ	X57025
2	ピン A.-COAX ポンプ	X55450
3	ピストン	053526
4	Oリング 2-1/8" (5.4 cm) OD - 赤	020051
5	キャップ-バルブボディ	056874-XX
6	ガスケット - 簡易ポンプバルブ	053527
7	アダプター - ミックス入口	054825
8	Oリング - 11/16 (1.7 cm) OD - 赤	016132
9	ピン - コッター	044731
10	シャフト A.-駆動-ミックスポンプ-ホッパー	X41947

項番	説明	パーツNo.
10a	クランク-駆動	039235
10b	シャフト-駆動	041948
11	Oリング - 駆動シャフト	048632
12	Oリング 1-3/4" (4.4 cm)	008904
13	クリップ-ミックスポンプ留め	044641
14a	配管 A.-注入ホッパー - 右側ホッパー(シングル&ダブルヘッド ソフトサーブユニット)	X56638
14b	配管 A.-注入ホッパー - 左側ホッパー(ダブルヘッド ソフトサーブユニット)	X56636
14c	配管 A.-注入ホッパー - ソフトサーブ(混合ユニット)	X56521
15	リング-チェック .120 OD	056524



分解とブラシクリーニング

1. ポンプシリンダーの留めピン、ミックス入口アダプター、バルブキャップ、ピストンを取り外します。すべてのOリングとバルブガスケットを取り外します。

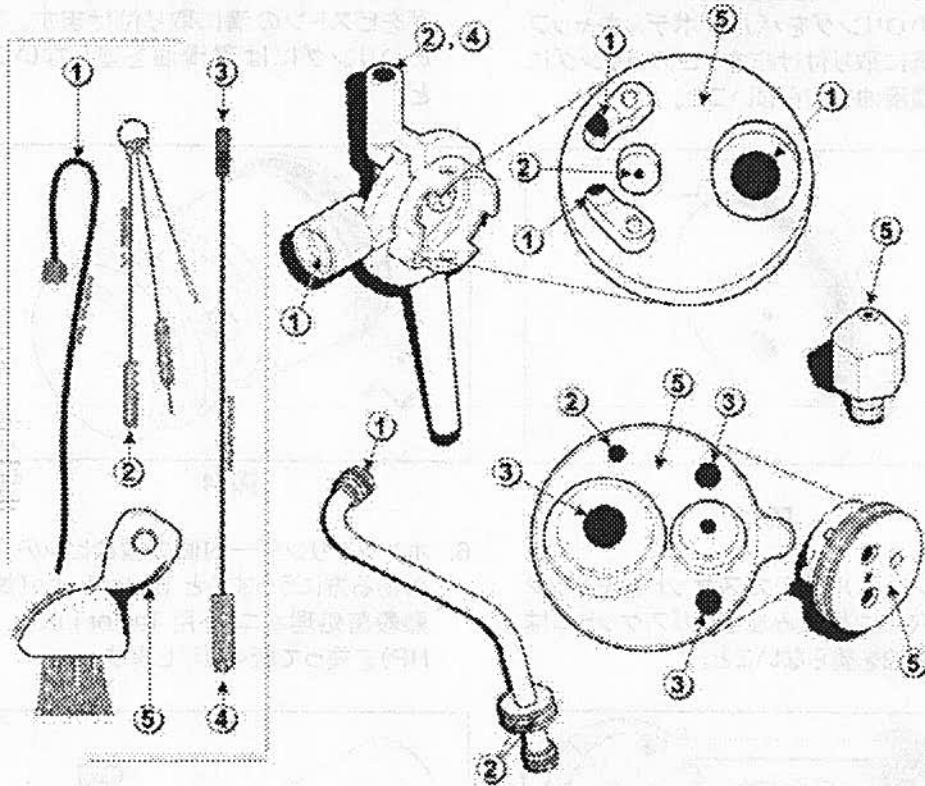
フリーザー備え付けのクリーニング用ブラシは必ずすべてを用意ください。

以下の手順は、必ず手を洗い消毒してから行ってください。

2. 分解したパーツはすべて、指定のクリーニング溶液に浸けながらブラシで洗い、潤滑油やミックスの粘膜をきれいに落とします。各パーツともあらゆる面や穴をブラシできれいにしてください。

アダプター、キャップ、注入管の正しいブラシの用法については、下図を参照してください。

すすぎにはきれいなぬるま湯を使い、ポンプの各パーツを清潔で乾燥した場所に置いて乾かします。



項番	説明
1	白の剛毛ブラシ - 1/2' x 1/2'
2	白の剛毛ブラシ - 3/16' x 1"
3	黒の剛毛ブラシ - 1/4' x 1-1/4'

項番	説明
4	白の剛毛ブラシ - 1/2' x 1"
5	白の剛毛ブラシ - 3' x 1/2'



4/6 ページ

改訂 5 版 5 - 030430

ミックスホッパー組立部

1. ポンプに取り付けられたゴム製の各パーツを点検します。ポンプおよび機器全体を正しく作動させるためには、リングとガスケットを完全な良好状態にしておく必要があります。キズや切れ目、穴などがあると、リングやガスケットはその役目を完全に果たすことができません。

不完全なパーツは速やかに交換し、廃棄してください。

2. ミックス入口組立部を組み立てます。赤のリングをバルブボディキャップの溝に取り付けます。このリングには潤滑油を塗らないこと。

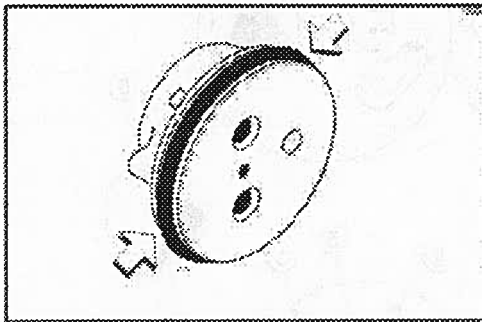


図 1

3. ポンプバルブのガスケットをキャップの穴にはめ込みます。ガスケットには潤滑油を塗らないこと。

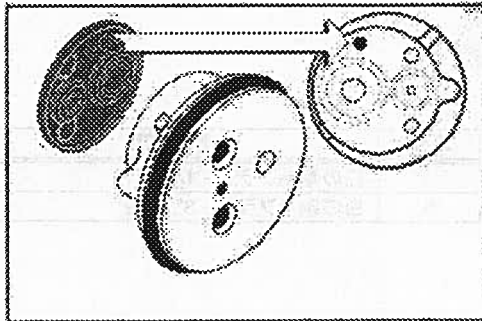


図 2

4. ミックス入口アダプターの穴にバルブボディキャップを挿入します。

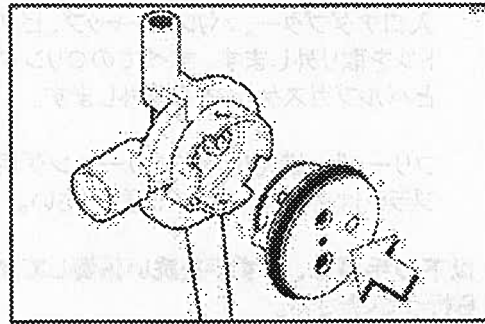


図 3

5. ピストンを組み立てます。赤のリングをピストンの溝に取り付けます。このリングには潤滑油を塗らないこと。

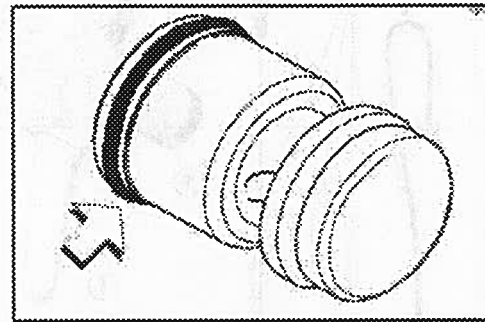


図 4

6. ポンプシリンダー内側の留めピンの穴のある方にうっすらと Taylor Lube (加熱殺菌処理ユニット用 Taylor Lube HP) を塗って軽く潤滑します。

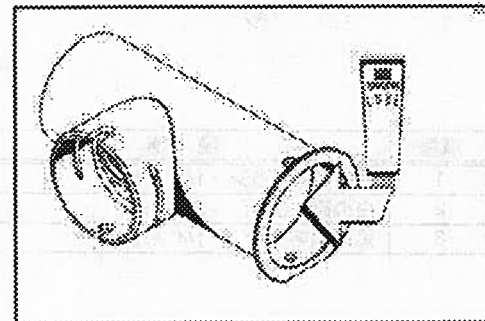
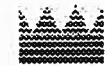


図 5



7. ポンプシリンダーの留めピンの穴のある方にピストンを挿入します。

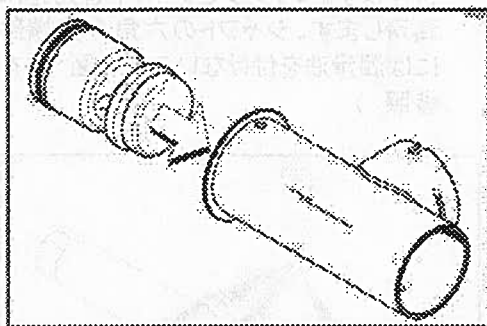


図 6

8. ポンプシリンダーにミックス入口組立部を挿入します。

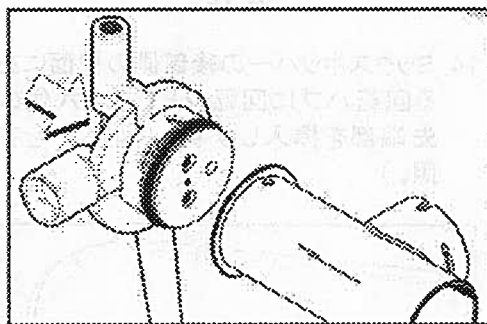


図 7

ミックス入口アダプターの回転穴がポンプシリンダーの回転穴を通して見えるように合わせてください。アダプターの根元にある位置合わせ用の窪みとポンプシリンダーの窪みとを合わせます。

9. ポンプシリンダーにある交差穴に留めピンを差し込み、ポンプ部を適所で固定します。

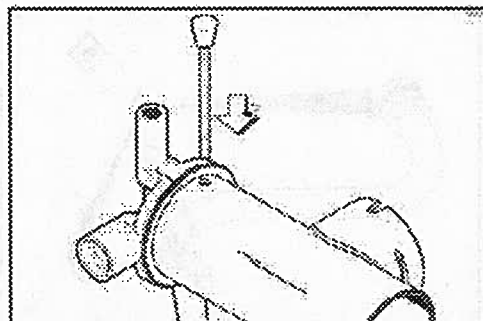


図 8

注: 留めピンの先端は、ポンプが正しく取り付けられたときに、「上」を向くようになるはずですが。

10. 注入管組立部を組み立てます。注入管の溝にバルブチェックリングをはめ込みます。

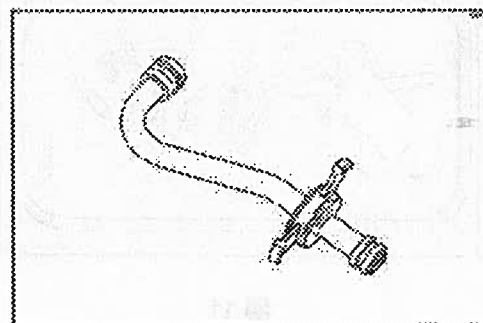


図 9



11. ミックス注入管の各先端部に赤のリングを1つずつ取り付け、よく潤滑します。

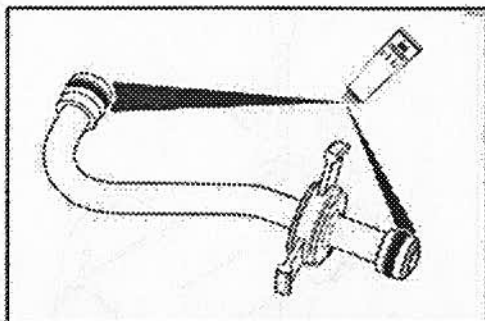


図 10

12. ポンプ組立部、ポンプクリップ、ミックス注入管、コッターピン、攪拌器をミックスホッパーの底に置いて消毒します。

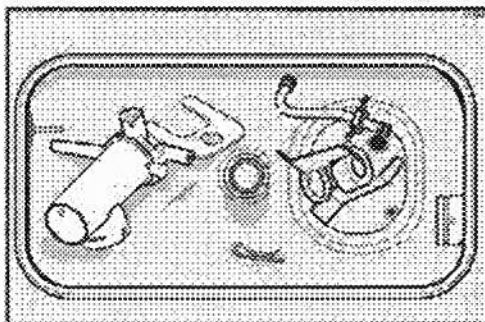


図 11

13. 黒の大型のOリング1本と黒の小型のOリング2本を回転シャフトの溝に取り付けます。Oリングとシャフトを十分に潤滑します。シャフトの六角の先端部には潤滑油を付けないこと。(図 12 を参照。)

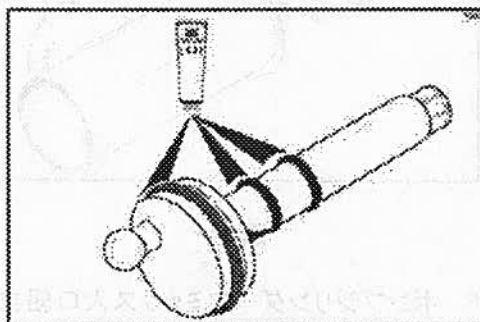


図 12

- 14 ミックスホッパーの後部側の壁面にある回転ハブに回転シャフトの六角の先端部を挿入します。(図 13 を参照。)

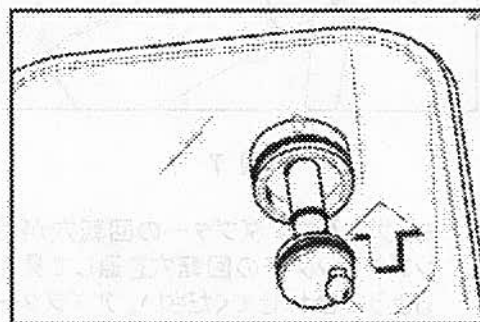


図 13

装置説明書の概説に従って消毒手順を行います。

